

編集後記

2019年度も無事、図書館学年報の刊行に至ることができた。巻頭言には、今年度、免許資格課程センター所長に着任された法学部の船津浩司先生よりお言葉をいただいた。船津先生には図書館司書課程・司書教諭課程、またセンターに係るお仕事でも大変お世話になっている。日頃ご支援いただいているセンターの皆様、印刷をお願いしている木村桂文社様、協力いただいた学生諸君にもあわせて、ここで感謝を述べたい。

2019年度は6月にイリノイ大学アーバナシャンペーン校の Steven Witt 氏をお招きして司書課程講演会を開催した。そのアテンドと当日の通訳を担っていただいた井上靖代先生に、ご講演記録を翻訳・編集いただき、本号に掲載している。ご講演いただいた Witt 氏はもちろん、ご自身も在外研究でお忙しい中、原稿作成をはじめ多大なご尽力をいただいた井上氏にあらためて心より感謝申し上げます。

今野氏にはかつて本学司書課程にお勤めでいらした、大城善盛先生のご著書について、書評をご寄稿いただいた。今後も本学司書課程に関係の深いテーマやご執筆者についての書評についてはぜひ掲載させていただければと考えている。

今年度は IFLA（国際図書館連盟）の年次大会に参加し、その後、各国の図書館も見学された板垣さんより、参加・見学報告をご寄稿いただいた。また、11月に開催した図書館見学会の記録を御前さんにご寄稿いただいた。図書館司書課程に関わる学生たちの旺盛な活動の様子が伝われば幸いである。

「私の仕事 この一年」は神戸市中央図書館の小野寺さん、京都府立北桑田高等学校の森さん、国立国会図書館の山田さんにご寄稿いただいた。いずれも昨年度、新卒で就職された皆さんである。それぞれが一年間のお仕事の中で得られた気づきは、多くの方にとっても参考になるものではないだろうか。一方採用については、名古屋市に採用された西村さん、久御山町に採用された江藤さん、守山市に採用された生田さんから「司書合格体験記」をご寄稿いただいた。それぞれ大学院在学中、既卒、転職と大きく異なるキャリアを辿られた皆さんである。図書館への採用を目指す後輩にとって、ルートは様々にあることを知る機会となれば幸いである。

2019年度末は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、司書課程や所属教員が関わる行事・イベントの中止も相次いだ。本号が刊行される新学期についても、状況がどうなるかは依然、不透明である。休館となる図書館も出ており、本学司書課程・司書教諭課程卒業生の皆様への影響も大きいところとお察しします。中には事態の沈静化に向けてご尽力なさっている卒業生の方もおられるでしょう。困難な状況ではありますが、何よりも皆様ご自身のご健康維持を第一としていただければ幸いです。

（佐藤翔）